

令和 6 年度事業報告

本報告は、定款第 39 条に基づき監事の監査を受け令和 7 年度第 1 回理事会(令和 7 年 4 月 26 日)にて承認を得ております。

公益社団法人日本栄養・食糧学会 令和 6 年度(令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日)事業報告

<概要>

平成 23 年(2011 年)9 月 1 日の公益社団法人化からの第 14 期目として、4 月 1 日より令和 6 年度の各事業をスタートさせた。5 月 24 日に福岡市アクロス福岡で定時社員総会を開催し、令和 5 年度決算報告書の件につき議決するとともに、次期理事・次期監事の選任を行い、名誉会員・終身会員の推戴を行った。報告事項として令和 6 年度事業計画の件、同年度収支予算計画の件、令和 5 年度事業報告等が承認された。また、規約類の改訂、新参与、および第 79 回大会会頭・第 80 回大会準備責任者についても承認された。定時社員総会への代議員の出席率は 80.0%(88 名/110 名)となった。

令和 5 年度事業報告、同年度決算書については令和 6 年 6 月 26 日に、また、令和 6 年度事業計画、同年度収支予算計画については令和 6 年 3 月 29 日に内閣府に報告した。

栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業(公 1 事業)として、次の活動を行った。九州・沖縄支部の担当による第 78 回年次大会を計画し、定時社員総会は 5 月 24 日に福岡市アクロス福岡にて開催し、その後、同日・同場所において、各賞授賞式・記念講演会が開催された。5 月 25 日・26 日の両日、中村学園大学において学術大会を開催した。参加者は、1,661 名(正会員 812 名、非会員 440 名、学生会員 409 名)となり、非常に盛況であった。また、話題性の高い演題について、トピックス賞を設け、22 名に賞状と副賞を授与するとともに、学生の優秀な発表を審査し、学生優秀発表賞として 13 名の学生に賞状と副賞を授与した。

支部事業については、全支部において、それぞれに相応しいテーマのもとに支部大会およびシンポジウム等を開催した。

栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業(公 2 事業)においては、引き続き日本栄養・食糧学会誌を効率的な編集方針のもとに定期的に刊行(第 77 巻 2 号～6 号、第 78 巻 1 号)した。英文誌 Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV) 刊行においては、日本ビタミン学会とともに構成している JNSV 編集委員会が中心となっており、平成 30 年 2 月からペーパーレス化を実施した結果、インパクトファクターも、現在 0.7 となっている。令和 2 年末には、英文誌 JNSV の編集に Federation of Asian Nutrition Societies (FANS) が加わり、国際展開が加速しつつある。

理事会を中心に、公益法人としてのガバナンスの向上、会員サービスの向上に努め、利益相反(COI)については、「栄養・食糧学研究の利益相反に関する指針」並びにその細則の改訂案について、本格運用を実施している。また、年次大会参加者の利便性向上の観点から、講演要旨集の Web 公開を継続実施している。

加えて平成 27 年度に新設した技術賞の選考を行い、1 件の授与を決定し、本学会における産官学連携のさらなる推進を図った。

若手会員の活性化を目指した事業の検討を、学会活動強化委員会を中心に進め、昨年度に引き続き、個人会員 2 名からの寄附を得て、若手研究助成の対象枠を 3 名とし、金額は 50 万円にするとともに、学生優秀発表賞を次年度も継続すべく準備を行った。更に若手活動を活性化するため、将来構想検討委員会にて検討の結果、若手活動企画推進委員会が令和 7 年 3 月に設置された。将来構想検討委員会として推進すべき事項として、①学会員数の増加(減少を歯止めする方策と増加させる方策)、②若手会員の情報発信の場の構築(学会活動強化委員会や学会誌編集委員会との連携)、③国際交流の強化(国際交流委員会)、④宇宙食健康認定制度の推進(宇宙食健康認定制度検討委員会)、⑤ダイバーシティ推進(ダイバーシティ推進委員会)を掲げることとした。①については、歯科ならびに医学領域との連携を深めるために、第 78 回大会でシンポジウムなどの開催を進めた。②については、若手委員の活動を推進する委員会の設置を決めるとともに、大会での若手シンポジウムを開催した。さらに、若手助成金や研究助成金を受領した会員による学会誌へのミニレビュー執筆を依頼するため、編集委員会と協議することとした。③から⑤については、当該委員会と連携を取り活動を推進することとした。

なお、第 22 回国際栄養学会議・組織委員会および学会創立 75 周年記念誌刊行委員会については、それぞれの事業が終了したことから、令和 5 年度第 6 回理事会で委員会の廃止が検討され、学会活動強化委員会に諮問された。令和 6 年 4 月に同委員会から廃止の答申が出され、令和 6 年度第 1 回理事会で両委員会が廃止された。

I 会員の動き

1) 会員の状況(令和 7 年 3 月 31 日現在)

名誉会員	38 名
終身会員	168 名
正会員	2,561 名
学生会員	778 名
団体会員	56 件
賛助会員	62 件(73 口)
学会誌定期購読団体	87 件

2) 令和 6 年度(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)物故会員(敬称略)

名誉会員：岩井 和夫、坂本 元子、藤本 健四郎

終身会員：江澤 郁子、富田裕一郎、中谷 延二、中村カホル、中村 良、長谷川恭子、原田 尚子、細田 四郎、山本順一郎、横澤 隆子

正会員：安彦 裕実、岡本 美紀、河田 照雄、只野 武

3) 支部別会員数 令和7年3月31日付

会員種別 支部名	名誉会員	終身会員	正会員	学生会員	団体会員	賛助会員 [口数]
北海道支部	1 (+1)	7 (±0)	92 (−4)	33 (+3)	1 (±0)	1[1] (±0)
東北支部	4 (+1)	11 (±0)	133 (−7)	23 (−5)	1 (±0)	0[0] (±0)
関東支部	16 (±0)	62 (−3)	937 (−34)	190 (+12)	32 (+1)	50[61] (−1)
中部支部	3 (+1)	14 (−1)	325 (−10)	85 (−11)	4 (±0)	3[3] (±0)
近畿支部	6 (±0)	50 (+3)	588 (−16)	247 (+33)	8 (−1)	6[6] (−1)
中国・四国支部	2 (±0)	14 (+2)	259 (−3)	99 (+3)	7 (−2)	2[2] (±0)
九州・沖縄支部	6 (±0)	10 (±0)	221 (−3)	100 (+38)	3 (±0)	0[0] (±0)
海外	0 (±0)	0 (±0)	6 (+3)	1 (−1)	0 (±0)	0[0] (±0)
合計	38 (+3)	168 (+1)	2561 (−74)	778 (+72)	56 (−2)	62[73] (−2)

() 内は令和6年3月31日会員数に対する増減を示す。

II 各種事業活動の推進報告

<栄養科学並びに食糧科学の振興と研究の活性化事業(公1)>

1) 大会事業

(1) 第78回日本栄養・食糧学会大会の開催(会頭 立花 宏文 九州大学大学院 教授)

令和6年5月24日(金)(アクロス福岡)総会・受賞者講演

令和6年5月25日(土)、26日(日)(中村学園大学)

特別講演・教育講演・シンポジウム・市民公開シンポジウム・ランチタイムセミナー・一般演題・学生優秀発表賞審査

一般講演 586題

参加者数 1661名

特別講演

「植物エクソソームの可能性と産業応用」

落谷 孝広(東京医科大学医学総合研究所)

「食事と運動機能が認知症発症リスクに及ぼす影響:久山町研究」

二宮 利治(九州大学大学院医学研究院)

(2) 支部事業

①北海道支部

*第54回日本栄養・食糧学会北海道支部大会(東北支部との合同支部大会及びシンポジウム)

令和6年12月7日(土)北海道大学函館キャンパス(函館市)

公開シンポジウム テーマ:「Vitaminology アップデート」

「ナイアシン栄養状態の制御とその応用」

福渡 努(滋賀県立大学)

「ピオチンによる肥満予防と新たな作用機序の可能性」

曾根 英行(新潟県立大学)

「疫学研究からみるビタミンD栄養の現状と課題」

津川 尚子(神戸学院大学)

「生体内変換型ビタミンKの新たな役割」

白川 仁(東北大学)

特別講演

「食品成分の消化吸収と消化管を介した生理作用 ~糖とフラボノイドの魅力的関係」

原 博(藤女子大学)

「骨格筋タンパク質代謝の食事成分による調節に関する研究」

長澤 孝志(岩手大学)

参加者数 68名(内 非会員 17名)

一般講演 17題

②東北支部

*第58回日本栄養・食糧学会東北支部大会および公開シンポジウム(北海道支部との合同支部大会及びシンポジウム)

令和6年12月7日(土)北海道大学函館キャンパス(函館市)

公開シンポジウム テーマ:「Vitaminology アップデート」

「ナイアシン栄養状態の制御とその応用」

福渡 努(滋賀県立大学)

「ピオチンによる肥満予防と新たな作用機序の可能性」

曾根 英行(新潟県立大学)

「疫学研究からみるビタミンD栄養の現状と課題」

津川 尚子(神戸学院大学)

「生体内変換型ビタミンKの新たな役割」

白川 仁(東北大学)

特別講演

「食品成分の消化吸収と消化管を介した生理作用 ~糖とフラボノイドの魅力的関係」

原 博(藤女子大学)

「骨格筋タンパク質代謝の食事成分による調節に関する研究」

長澤 孝志(岩手大学)

参加者数 68名(内 非会員 17名)

一般講演 17題

③関東支部

*第113回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム

令和6年11月9日(土)オンライン開催

世話人:青江 誠一郎(大妻女子大学)

テーマ:「腸管免疫と食事因子に関する研究」

「食事因子と腸内細菌による粘膜免疫応答の修飾」

長谷 耕二(慶應義塾大学大学院)

「乳酸菌の免疫調節作用について」

内藤 智昭(ヤクルト本社中央研究所基盤研究所)

「機能性農産物による免疫機能の制御」

庄司 俊彦(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)

「ヒト介入試験の経験から見た腸管免疫と栄養学」
参加者数 51 名 (内 非会員 31 名)

西平 順 (北海道情報大学)

*第 114 回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム
令和 7 年 3 月 15 日 (土) 大妻女子大学千代田キャンパス
世話人: 青江 誠一郎 (大妻女子大学)

テーマ: 「日本人の食事摂取基準 (2025 年版) の策定経緯と課題」

「総論および炭水化物の章における議論について」

朝倉 敬子 (東邦大学)

「食事摂取基準—策定における国民健康・栄養調査の役割およびたんぱく質の策定経緯—」

松本 麻衣 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所)

「食事摂取基準におけるビタミンの策定経緯と課題」

栗原 晶子 (大阪公立大学)

「食事摂取基準における多量ミネラルの策定経緯と課題」

上西 一弘 (女子栄養大学)

参加者数 54 名 (内 非会員 22 名)

*第 27 回健康栄養シンポジウム

令和 7 年 2 月 15 日 (土) オンライン開催

代表世話人: 吉田 博 (東京慈恵会医科大学附属柏病院 病院長・教授)

テーマ: 「フレイル対策で拓く 健やかな未来」

「超高齢化社会におけるフレイルの意義と課題」

鈴木 隆雄 (国立長寿医療研究センター)

「地域におけるフレイル対策」

清野 諭 (山形大学 well-Being 研究所)

「高齢期の栄養と口腔機能の関わり」

本川 佳子 (東京都健康長寿医療センター研究所)

「口腔の健康と全身の関連」

岩崎 正則 (北海道大学大学院)

「フレイル・サルコペニアについてメカニズムから考える対策」

細山 徹 (東京都健康長寿医療センター研究所)

参加者数 246 名 (内 非会員 196 名)

④中部支部

*第 83 回日本栄養・食糧学会中部支部大会

令和 6 年 11 月 23 日 (土) 静岡県立大学 草薙キャンパス

特別講演

「骨格筋代謝における遺伝子発現調節」

亀井 康富 (京都府立大学)

令和 6 年度奨励賞講演「肥満関連疾患の予防に資するメチルキサンチン化合物の特性」

三谷 壘一 (信州大学)

「ポリフェノール類による尿毒症物質フェノール産生阻害」

三好 規之 (静岡県立大学)

「マイクロプラスチックの体外排泄に寄与する食素材について」

清水 宗茂 (東海大学)

参加者数 76 名 (内 非会員 25 名)

一般演題 21 題

⑤近畿支部

*第 63 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

令和 6 年 10 月 26 日 (土) 京都府立大学 稲盛記念会館・歴彩館

会頭: 亀井 康富 (京都府立大学)

「栄養・代謝と炎症・免疫の接点 「イムノメタボリズム」 から考える生活習慣病」

菅波 孝祥 (名古屋大学)

「血中循環型 NMN 合成酵素 eNAMPT とその生理作用」

—NAD+代謝促進による老化・寿命制御—

吉岡 潔志 ((一社) プロダクティブ・エイジング研究機構))

参加者数 213 名 (内 非会員 51 名)

一般講演 73 題

*第 15 回栄養学を志す若手のためのフォーラム

令和 6 年 10 月 27 日 (日) オンライン開催

テーマ「栄養学はおもしろい」

「栄養学研究には意外なところに気づきのポイントが?! 一頭と手を動かす重要性」

井上 博文 (東京農業大学)

「ダイエット食が体内時計を早める! ?」

大石 勝隆 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

「失敗、失敗、後に成功~だから栄養学研究はたまらない~」

松本 麻衣 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所)

「高齢者栄養管理とエネルギー代謝: 現場から見た研究の必要性」

川瀬 文哉 (J A 愛知厚生連 足助病院)

参加者数 48 名 (内 非会員 29 名)

⑥中国・四国支部

*第 57 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会ならびに市民公開講座

令和 6 年 11 月 16 日 (土) ~ 11 月 17 日 (日) ノートルダム清心女子大学 ヨゼフホール 3 階

特別講演

「食品の抗酸化作用と快眠効果 —特に、黄ニラの抗酸化作用について—」

坪井 誠二 (中国学園大学)

「大豆ペプチドによる脳の健康増進作用: 末梢臓器との関連」

古屋 茂樹 (九州大学大学院)

市民公開講座 「食品の機能性 —基礎から応用—」

「機能性表示食品の概況 —制度から研究開発・マーケティングまで—」

池口 主弥 (岡山県立大学)

「肥満・脂肪組織機能と食品成分による制御」

後藤 剛 (京都大学大学院)

「時間栄養学とは —食べる時間が大事だった—」

大池 英明 (農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門)

参加者数 60 名 (内 非会員 19 名)
一般講演 33 題

⑦九州・沖縄支部

*2024 年度 (公社) 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部大会および (公社) 日本食品科学工学会西日本支部合同大会
令和 6 年 11 月 9 日 (土)、10 日 (日) 長崎大学文教キャンパス 環境科学部 A 棟 2 階

特別講演「超高齢社会のペプチド科学」

「納豆ペプチドによる認知機能改善作用」

片山 茂 (信州大学学術研究院)

「食事から取れるペプチドの機能 ～自然免疫・幹細胞への影響」

佐藤 健司 (京都大学大学院)

「宇宙栄養学：ユビキチンリガーゼ阻害活性を有する機能性ペプチドとその応用」

二川 健 (徳島大学大学院)

参加者数 134 名 (内 非会員 32 名)

一般講演 47 題

2) 大会事業準備

(1) 第 79 回日本栄養・食糧学会大会の開催 (会頭 小田 裕昭)

令和 7 年 5 月 23 日 (金)

*定時社員総会

*授賞式、功労賞受賞者挨拶、受賞者講演

令和 7 年 5 月 24 日 (土)～25 日 (日)

*特別講演

3 題

*教育講演

7 題

*市民公開シンポジウム

1 テーマ

*大会テーマシンポジウム

1 テーマ

*緊急シンポジウム

1 テーマ

*国際シンポジウム

1 テーマ

*本部主催シンポジウム

5 テーマ

*分野交流シンポジウム

6 テーマ

*関連学会集会

5 学会

*一般演題

(2) 第 80 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

令和 8 年 5 月 15 日 (金)～17 日 (日)

中国・四国支部 (会頭 松尾 達博 香川大学) が開催担当支部として準備を進めた。

(3) 第 81 回日本栄養・食糧学会大会開催準備

令和 9 年 5 月 21 日 (金)～23 日 (日)

関東支部 (大会準備責任者 関 泰一郎 日本大学) が開催担当支部として決定した。

3) 表彰事業および助成・助成推薦事業

本事業は、各種授賞等選考委員会並びに学会活動強化委員会を通じ展開された。

日本栄養・食糧学会では、企業・団体、個人からの寄附を基に、研究助成制度、海外交流助成制度を設けるとともに、学会の費用として学会賞、功労賞、奨励賞、技術賞を設け、毎年、定時社員総会後に表彰している。

研究助成は、これから実施する研究に対する助成金 (研究費) であり、研究助成は分野を指定して募集するもので、年間 100 万円×2 件を募集している。若手研究助成は、33 歳未満の研究者が対象で、50 万円×3 件を募集している。

更に、海外の学会で研究成果を発表する研究者を対象に、国際交流助成を行っている。30 万円×5 件を募集。

以上の各助成金は、日本栄養・食糧学会誌および栄食ニュースにて会員に伝えられ、学会活動強化委員会で審議され、更に各種授賞等選考委員会が承認し、理事会の決議を経て決定される。

また、終了した研究の成果を評価するための各賞を設けている。

功労賞は、顕著な業績を上げ、栄養・食糧学会に貢献した研究者に授与される。3 件以内。

学会賞は、顕著な業績を上げ、現在も研究に従事している研究者に授与される。3 件以内。副賞 20 万円。

奨励賞は、将来の発展を期待しうる 42 歳未満の若手研究者に授与される。3 件以内。副賞 20 万円。

技術賞は、産業上の顕著な業績を上げた企業などのグループ或いは個人に授与される。2 件以内。

これらの賞は、日本栄養・食糧学会誌および栄食ニュースにて会員に伝えられ、各種授賞等選考委員会で審議され、理事会の決議を経て決定される。

学生・若手研究者育成のための表彰も行っている。これらは、学会が企画する学術大会での発表を原則に、いずれも、大会に演題登録を行う際に、本人の賞への興味や応募の意思を確認し、希望者について、評価し、決定している。

一つは、学生優秀発表賞であり、応募された 30 歳未満の学生会員の研究成果について学会活動強化委員会で約 40 演題に絞られ、学会当日に代議員と理事による投票で 10 題強が選ばれる。学会会長から表彰される。副賞は 2 万円。

もう一つは、トピックス賞で、話題性の高い研究、実用性のある研究などを広く公開することにより、大会プログラム委員会と学会広報委員会が審議し、20 名強が選ばれる。大会会頭から表彰される。副賞は 1 万円。

(1) 第 1 回各種授賞等選考委員会 (12/14) が開催され、令和 7 年度表彰の功労賞 3 件、学会賞 3 件、奨励賞 3 件、技術

賞 1 件、栄養・食糧学基金研究助成対象者 2 件、栄養・食糧学基金若手研究助成対象者 3 件、栄養・食糧学基金国際交流助成を推薦し理事会に上申した。

(2) 学会活動強化委員会活動としては、

- ①学術企画の支援として学会活動強化費申請（5件）のメール審査を行い、全て承認した。
- ②栄養・食糧学基金研究助成・若手研究助成の審査を行い、各種授賞等選考委員会へ報告を行った。
- ③学生優秀発表賞の応募、選考を行った。
- (3) 令和6年度表彰授与式開催
- ①令和6年度受賞者
- | | | | | |
|-----|----|---|-------|-------|
| 功労賞 | 3件 | 宇都宮一典 | 長澤 孝志 | 原 博 |
| 学会賞 | 3件 | 曾根 博仁 | 松井 利郎 | 山地 亮一 |
| 奨励賞 | 2件 | 井上 博文 | 三谷 墨一 | |
| 技術賞 | 1件 | 株式会社J-オイルミルズ（境野 眞善、佐野 貴士、青木 亮輔（株式会社J-オイルミルズ）、加藤 俊治、仲川 清隆（東北大学）） | | |
- ②令和6年度栄養・食糧学基金研究助成者
- | | | |
|----------------|-------|-------------|
| 栄養・食糧学基金研究助成 | 後藤 剛 | 豊島 由香 |
| 栄養・食糧学基金若手研究助成 | 石山 詩織 | 加藤 主税 鶴留奈津子 |
- ③学生優秀発表賞 13件
- ④トピックス賞 22件
- (4) 令和7年度対象の各賞候補者の公募、栄養・食糧学基金の研究助成・若手研究助成対象者募集記事を学会誌第77巻4号、ホームページ及びメールニュースに掲載した。栄養・食糧学基金 国際交流助成令和6年度後期の募集を学会誌第77巻3号・令和7年度前期の募集を77巻6号、ホームページ及びメールニュースに掲載した。
- (5) 表彰事業の協賛のため2企業・1団体へ依頼し応諾された。
- (6) 下記外部団体からの研究褒賞候補者推薦依頼・研究助成募集の周知を図った。
- ①研究褒賞候補者推薦依頼
- 天野エンザイム（株）/酵素応用シンポジウム研究奨励賞 （公財）安藤スポーツ・食文化振興財団/安藤百福賞
（公財）飯島藤十郎記念食品科学振興財団/飯島藤十郎食品科学賞&飯島藤十郎食品技術賞
（公財）上原記念生命科学財団/上原賞
ウェルネスライフジャパン実行委員会/ウェルネスフードアワード
（株）オルトメディコ/BEST LIFE AWARD
（公財）SGH 財団/SGH 特別賞 （国研）科学技術振興機構（JST）/羽ばたく女性研究者賞
（公財）木原記念横浜生命科学振興財団/学術賞 慶應義塾医学振興基金/慶應医学賞
（一財）材料科学技術振興財団/山崎貞一賞 （公財）杉浦記念財団/杉浦地域医療振興賞
（公財）住友生命健康財団/スミセイ女性研究者奨励賞 第一生命保険株式会社/保健文化賞
（一財）東京顕微鏡院/遠山椿吉記念健康予防医療賞
内閣府/日本オープンイノベーション大賞・日本医療開発大賞、野口英世アフリカ賞
（公財）内藤記念科学振興財団/内藤記念科学振興賞 （一社）日本医師会/日本医師会医学賞・医学研究奨励賞
（独）日本学術振興会/日本学術振興会賞・育志賞
（公社）日本看護協会・ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ/ヘルシー・ソサエティ賞
（一財）バイオインダストリー協会/大賞・奨励賞 福井県小浜市/杉田玄白賞
（公財）三島海雲記念財団/三島海雲学術賞 （公財）森永奉仕会/森永奉仕会賞
文部科学省/表彰科学技術賞、若手科学賞及び研究支援賞
- ②研究助成募集の周知
- | | |
|----------------------|----------------------|
| （公社）アサヒグループ財団 | （公財）味の素の文化センター |
| （公財）飯島藤十郎記念食品科学振興財団 | （公財）上原記念生命科学財団 |
| うま味研究会 | （公財）エリザベス・アーノルド富士財団 |
| 大麦食品推進協議会 | （一財）旗影会 |
| （一財）キャノン財団 | 公益信託家政学研究助成基金 |
| （国研）科学技術振興機構 | （国研）日本医療研究開発機構（AMED） |
| （公財）サッポロ生物科学振興財団 | （一財）サンスター財団 |
| （一社）J ミルク | 白石科学振興会 |
| （公財）杉浦記念財団 | （公財）住友生命健康財団 |
| （公財）ソルト・サイエンス研究財団 | （公財）タカノ農芸化学研究助成財団 |
| （一財）田沼グリーンハウス財団 | （公財）長寿科学振興財団 |
| （公財）東洋食品研究所 | （公財）内藤記念科学振興財団 |
| （公財）ニッポンハム食の未来財団 | （公財）日本科学協会 |
| 日本ゴマ科学会 | （公財）日本食品化学振興財団 |
| （公財）日本ヘルスケア協会 | （独）農畜産業振興機構 |
| （公財）パブリックヘルスリサーチセンター | （公財）ひと・健康・未来研究財団 |
| （公財）ファイザーヘルスリサーチ振興財団 | （公財）ホクト生物科学振興財団 |
| （公財）本庄八郎記念お茶財団 | 抹茶と健康研究会 |
| （公財）三島海雲記念財団 | （公財）森永奉仕会 |
| やずや食と健康研究所 | （公財）山田科学振興財団 |
| （公財）ロッテ財団 | |
- (7) 外部団体への推薦
- ①公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団
2024年度飯島藤十郎賞 各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦
- ②公益財団法人三島海雲記念財団

第14回(2025年度)三島海雲学術賞【自然科学部門】各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦

③公益財団法人森永奉仕会

令和6年度森永奉仕会賞 各種授賞等選考委員によるメール審査の結果、1件を学会として推薦

(8) 研究活動の奨励

第78回大会時に下記関連学術集会を支援

①発酵食品研究集会

②Hindgut Club Japan サテライトシンポジウム

③栄養学若手研究者の集い

④第14回カルノシン・アンセリン研究会

⑤スポーツ栄養学研究会

4) 栄養科学・食糧科学に関する研究・調査事業

本事業は、下記2テーマで、健康・食品保健表示の検討は令和4年度より常置委員会として、栄養・食糧学用語に関する検討は平成28年度より常置委員会としてそれぞれの委員会で展開された。

以下各テーマについて主な進捗を報告する。

(1) 健康・食品保健表示に関する検討

第78回日本栄養・食糧学会大会において「日本人の食事摂取基準(2025年版): 栄養学の方向性と食事ガイドラインの方向性」に関するシンポジウムを開催した。本シンポジウムの講演内容について、日本栄養・食糧学会誌に投稿し、学会員への普及啓発を行った。

(2) 栄養・食糧学用語に関する検討

栄養・食糧学用語辞典(第2版)における見出し語ならびに説明文の検証を行い、新規収録または改訂すべき用語について委員からの意見集約を行い、ホームページへの改訂版掲載に向けて作業を行った。

5) 国際交流事業

(1) Federation of Asian Nutrition Societies (FANS、アジア栄養学会連合) 関係

FANSと連携し、その事業を支援した。

(2) International Union of Nutritional Sciences (IUNS、国際栄養科学連合) 関係

IUNSと連携し、その事業を支援した。また、日本学術会議 IUNS 分科会と共催し、第78回日本栄養・食糧学会大会において、Korean Society of Food Science and Nutrition (KFN、韓国食品栄養科学会) との国際シンポジウムを開催した。

(3) International Union of Food Science and Technology (IUFoST、国際食品科学工学連盟) 関係

IUFoST Japan と連携し、その事業を支援した。

(4) 東京栄養サミット関係

日本栄養学学術連合と連携し、東京栄養サミットで策定したコミットメントの実行に努めている。

6) 倫理審査事業

(1) 倫理審査の実施

2024年度の審査実施件数は1件、問い合わせに対する助言実施は1件であった。

(2) 倫理審査規程の随時改訂

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の運用に関する「ガイダンス」に関して大きな変更はなく、本年度は、本学会規程の変更を要しないと判断された。

< 栄養科学並びに食糧科学情報の活用推進と普及事業(公2) >

1) 出版事業の推進

本事業に関しては、日本栄養・食糧学会誌編集委員会が担当するとともに、JNSV 刊行においては、日本ビタミン学会および FANS との共同編集として発刊した。これらの学術誌の発刊は、(一財)学会誌刊行センターに委託している。

受付日	全投稿数	総説	報文	研究ノート	資料	速報	論壇	講座
令和5年4月	3(1)	1(1) ^{注1}	2(0) ^{注2}					
令和5年5月	3(3)	2(2)	1(1)					
令和5年6月	4(2)	2(2) ^{注3}	1(0)		1(0) ^{注2'}			
令和5年7月	3(3)	3(3) ^{注3、4}						
令和5年8月	8(3)	8(3) ^{注4、5}						
令和5年9月	3(2)	2(2) ^{注4、5}	1(0) ^{注7}					
令和5年10月	3(3)	1(1)	1(1)		1(1) ^{注2''}			
令和5年11月	2(1)	1(1) ^{注6}		1(0) ^{注7'}				
令和5年12月	4(4)	4(4) ^{注6}						
令和6年1月	1(1)	1(1) ^{注8}						
令和6年2月	3(3)	3(3) ^{注8}						
令和6年3月	2(0)		1(0)	1(0)				
令和6年4月	4(3)	3(3) ^{注9}		1(0)				
令和6年5月	4(4)	2(2) ^{注9、注11}	1(1)	1(1)				
令和6年6月	5(4)	4(4) ^{注10}			1(1)			
令和6年7月	2(1)	1(1) ^{注11}	1(0)					
令和6年8月	3(3)	3(3) ^{注11}						
令和6年9月	3(3)	2(2) ^{注11、注12}		1(1)				
令和6年10月	3(2)	2(2) ^{注12}	1(0)					
令和6年11月	8(2)	2(2) ^{注12}	6(審査中3・否3)					
令和6年12月	8(7)	5(5) ^{注13、注14}	2(1)	1(1)				
令和7年1月	3		3(審査中1・否2)					
令和7年2月	3(2)	2(2) ^{注14}	1(審査中)					
令和7年3月	3	1(審査中)	2(審査中)					

※ 採否が確定していない論文がある月： 令和6年11月、令和7年1～3月

注1 76-4 特集号「ビタミン・ミネラルの代謝的運命を決定する酵素・トランスポーター」

注2, 2', 2'' 1報は報文としては取り下げ、その後資料へ種別変更のうえで再投稿されたが大幅修正を促し一旦不採択、その後再投稿され採択

注3 76-5 特集号「骨そして筋肉の健康における栄養素・非栄養素の役割」

注4 76-6 特集号「令和5年度各賞受賞」

注5 77-1 特集号「食品タンパク質由来の健康機能性ペプチド研究の最先端」

注6 77-2 特集号「抗炎症が繋ぐ食品因子の慢性疾患予防」

注7, 7' 種別変更(報文→研究ノート)のうえでの再投稿を促しての不採択、その後再投稿され再度不採択

注8 77-3 特集号「ミツバチ産品：プロポリスの健康機能性研究と栄養・食糧学」

注9 77-4 特集号「腸管での栄養センシングと生体恒常性」

注10 77-5 特集号「血糖降下薬と栄養の関係について」

注11 77-6 特集号「令和6年度各賞受賞」

注12 78-1 特集号「78回大会シンポジウム04」

注13 78-2 特集号「78回大会シンポジウム13」

注14 78-3 特集号「臓器を切り口とした生活習慣病」

<令和5(2023)年度>

*投稿論文 11編(依頼総説、講座除く)：採択率 33%(依頼総説、講座、取り下げ除く)

掲載可 3編(平均審査日数146日) 掲載否 6編(平均審査日数72日)

取り下げ 2編 審査中 0編

*依頼総説 28編(平均審査日数53日)

<令和6（2024）年度>

*投稿論文 22編（依頼総説、講座除く）：採択率 40%（依頼総説、講座、取り下げ、審査中除く）
 掲載可 6編（平均審査日数 102 日） 掲載否 9編（平均審査日数 35 日）
 取り下げ 0編 審査中 7編（依頼総説除く）
 *依頼総説 26編（平均審査日数 40 日）

②発行状況

巻号	総説	報文	研究ノート	資料	速報	論壇	講座	論文計	書評
77-2	5							5	2
77-3	4	1		1				6	
77-4	4							4	
77-5	4	1						5	
77-6	6		1	1				8	
78-1	5							5	1
令和6年度計	28	2	1	2	0	0	0	33	3

③刊行状況

巻号	納本日	発行日
77-2	4月10日	4月10日
77-3	6月10日	6月10日
77-4	8月9日	8月10日
77-5	10月11日	10月10日
77-6	12月10日	12月10日
78-1	2月10日	2月10日

④編集委員会を令和6年5月25日に開催した。

(2) Journal of Nutritional Science and Vitaminology (JNSV)

①編集状況

日本ビタミン学会および FANS(Federation of Asian Nutrition Societies) との共同編集 Vol.70 No.2~No.6、Vol.71 No.1の刊行

JNSV編集委員会報告

2025年3月10日現在

理事会			分野別投稿数							分野別採択数						
資料提出日	Vol	年	Total	V	N	F	Review	Note		Total	V	N	F	Review	Note	備考
3月23日	70	2024	53	15	32	6	3	7		23	1	17	5	2	4	70-2まで
5月23日			94	18	65	11	5	11		36	2	26	8	2	5	70-3まで
10月19日			197	34	137	26	20	25		45	4	32	9	2	7	70-4まで
1月22日			249	39	178	32	21	33		66	5	49	12	2	13	70-6まで
3月22日	71	2025	44	4	31	9	4	9		20	4	12	4	1	2	71-2まで

Total は、V、N、Fの合計。

V:Vitaminology

N:Nutritional Science

F:Food Science

(各号の内訳)							
Total	V	N	F	Review	Note		巻号
11	1	8	2	0	3	✓	70-1
12	0	9	3	2	2	✓	70-2
13	1	9	3	0	1	✓	70-3
9	2	6	1	0	2	✓	70-4
11	1	9	1	0	3	✓	70-5
10	0	8	2	0	2	✓	70-6
10	0	8	2	1	1	✓	71-1
10	4	4	2	0	1	✓	71-2

Vol.62(2016)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	14	22	23	19	19	17	20	11	15	16	26	17	219
掲載数		No.1 11		No.2 10		No.3 8		No.4 10		No.5 14		No.6 9	62
Vol.63(2017)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	21	20	16	15	23	14	15	12	11	15	14	16	192
掲載数		No.1 11		No.2 9		No.3 9		No.4 9		No.5 10		No.6 11	59
Vol.64(2018)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	20	19	16	10	20	22	18	16	26	18	14	18	217
掲載数		No.1 11		No.2 10		No.3 11		No.4 11		No.5 11		No.6 12	66
Vol.65(2019)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	17	16	33	22	19	17	24	13	23	17	16	28	245
掲載数		No.1 15		No.2 15		No.3 10		No.4 10		No.5 12		No.6 12	74
Vol.66(2020)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	21	22	19	18	15	28	26	15	24	22	20	18	248
掲載数		No.1 13		No.2 15		No.3 11		No.4 15		No.5 15		No.6 13	82
Vol.67(2021)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	15	25	23	26	24	29	16	21	25	16	16	27	263
掲載数		No.1 10		No.2 11		No.3 8		No.4 6		No.5 12		No.6 9	56
Vol.68(2022)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	22	21	22	27	18	18	20	18	20	11	19	13	229
掲載数		No.1 10		No.2 10		No.3 11		No.4 14		No.5 15		No.6 10	70
Vol.69(2023)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	14	14	27	21	19	19	24	17	15	17	19	17	223
掲載数		No.1 11		No.2 9		No.3 8		No.4 10		No.5 10		No.6 13	61
Vol.70(2024)													
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
投稿数	23	24	16	21	30	19	17	20	24	19	22	14	249
掲載数		No.1 11		No.2 12		No.3 13		No.4 9		No.5 11		No.6 10	66

JNSV投稿内訳および結果

Vol.	Year	Total No.*	V		N		F		R	Note		年間 掲載数	頁
			投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	投稿数	掲載数	掲載数	投稿数	掲載数		
56	2010	172	29	11	115	44	28	13	1	25	12	68	470
57	2011	167	28	8	104	49	35	8	2	24	10	65	460
58	2012	153	33	11	107	43	13	11	1	28	18	65	466
59	2013	144	27	22	96	51	21	7	4	24	20	80	614
60	2014	146	29	11	90	42	27	13	3	27	11	66	471
61	2015	184	39	14	113	46	32	15	0	29	17	75	543
62	2016	219	33	15	156	38	30	9	2	19	9	62	451
63	2017	192	33	12	123	36	36	11	1	26	6	59	446
64	2018	217	37	15	146	37	34	14	4	29	13	66	501
65	2019	245	44	17	158	51	43	6	5	33	16	74	573
66	2020	248	68	22	148	38	32	22	4	26	15	82	607
67	2021	263	65	19	155	31	43	6	3	31	10	56	442
68	2022	229	50	16	138	38	41	16	3	25	12	70	571
69	2023	223	38	15	145	34	40	12	3	36	11	61	506
70	2024	249	39	5	178	49	32	12	2	33	13	66	536

*V, N, Fの合計。R: Review.

V: Vitaminology

N: Nutritional Science

F: Food Science

採択数・却下数(2023.12.31現在)

論文提出日	2015/1/1-2015/3/30 (旧システム)	2015/3/31-2015/12/31 (新システム)	合計	採択率
採択数	14	31	45	
却下数	16	87	103	
合計			148	30.41%

注) 新システムでは採択率＝採択数/採択数＋却下数になります。

論文提出日		2016/1/1-2016/12/31		
採択数		63		
却下数		120		
合計			183	34.42%
論文提出日		2017/1/1-2017/12/31		
採択数		60		
却下数		117		
合計			177	33.90%
論文提出日		2018/1/1-2018/12/31		
採択数		77		
却下数		106		
合計			183	42.07%
論文提出日		2019/1/1-2019/12/31		
採択数		76		
却下数		135		
合計			211	36.02%
論文提出日		2020/1/1-2020/12/31		
採択数		68		
却下数		164		
合計			232	29.31%
論文提出日		2021/1/1-2021/12/31		
採択数		58		
却下数		171		
合計			229	25.33%
論文提出日		2022/1/1-2022/12/31		
採択数		71		
却下数		151		
合計			222	32.00%
論文提出日		2023/1/1-2023/12/31		
採択数		65		
却下数		129		
合計			194	33.50%
論文提出日		2024/1/1-2024/12/31		
採択数		64		
却下数		151		
合計			215	29.77%

②採択までにかかる期間が長すぎることもなく順調に編集作業が行われている。(インパクトファクターは0.7)

③編集委員の交代(6名)

2) 広報事業

本事業は、広報委員会を通じ展開された。

(1) 会員向け情報の告知

学会内の動き、関連学術団体、関連機関(大学・官庁等)からの情報、依頼記事(募集・告知等)について、広報推進を行った。

①ホームページへ定期的及び緊急的に情報を掲載

②会員向けメールマガジン「栄食ニュース」は1回/月のペースで発信

ホームページへの掲載の紹介及びタイムリーな記事掲載を行い、通算 No. 302～No. 327 の計 26 号発信(定期 12 号、臨時 14 号)

③国内学術団体からの事業関連の連絡・通知

*日本学術会議

日本学術会議発行メールニュース(No. 876～No. 916)の周知の実施

*日本医学会

シンポジウム等の開催周知協力の実施

④第 78 回大会記者会見(4/26、学士会館)

⑤Wikipedia 情報更新(2024 年 11 月)

Ⅲ 管理業務報告

(1) 内閣府からの通知・連絡対応

①内閣府より

*公益法人メールマガジン(第 191 号～第 215 号)受理

*【公益法人 Information から】様式チェック結果通知(修正要)(4/25、6/13)

*【公益法人 Information から】様式チェック結果通知(提出可)(4/25、6/13、6/17、7/17、8/22、3/31)

- *【公益法人 Information から】提出完了通知（6/17、7/17、8/22、3/31）
- *【公益法人 Information から】「事業報告等の提出」の御案内（提出期限 1 か月前の御案内）（6/1）
- ②内閣府へ
 - *「国と特に密接な関係がある公益法人への該当性の有無」を HP に掲載（4/1）
 - *令和 5 年度事業報告（6/17 オンライン提出）
 - *令和 7 年度事業計画書等（3/31 オンライン提出）
 - *アンケート対応
- （2）文部科学省
 - *「第 12 回科学技術予測調査 デルファイ調査」実施の周知に関するご依頼（HP 掲載）
- （3）厚生労働省
 - *医薬品・医療機器安全性情報報告制度の周知
 - *医薬品・医療機器安全性情報 No. 409～No. 417 の周知依頼
- （4）農林水産省
 - 特になし
- （5）日本学術会議
 - ①日本学術会議発行メールニュース（No. 877～No. 916）の周知
 - ②会長メッセージ「内閣府WGへの参画にあたっての基本的考え方ー日本学術会議のよりよい役割発揮のための検討を求めますー」
 - ③学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針に関する説明会の御案内について
 - ④第 191 回総会のご報告
 - ⑤6 月 7 日 第 11 回「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」における配布資料等について
 - ⑥会長メッセージ「日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の第 1 2 回会合の開催について」の発出について
 - ⑦7 月 29 日幹事会及び記者会見の御報告
 - ⑧会長談話「宮崎県日向灘を震源とする地震及び南海トラフ地震臨時情報について」の発出について
 - ⑨「学術論文等の即時 OA の実現に向けた基本方針」の実施にあたっての具体的方策に係る説明会について
 - ⑩8 月 30 日幹事会のご報告
 - ⑪提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」に関するアンケート調査への御協力をお願い
 - ⑫9 月 30 日幹事会及び記者会見の御報告
 - ⑬令和 6 年度 日本学術会議協力学術研究団体の実態調査への御協力をお願い
 - ⑭11 月 28 日幹事会及び記者会見の御報告
 - ⑮会長談話「有識者懇談会最終報告及び日本学術会議第 193 回総会を受けて ～より良い役割発揮のための改革に向けて～」の発出について
 - ⑯12 月 20 日幹事会のご報告
 - ⑰第 193 回総会のご報告
 - ⑱持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024
 - ⑲1 月 23 日幹事会及び記者会見の御報告
 - ⑳会長談話「日本学術会議の法人化に関する法案の検討状況について」の発出について
 - ㉑2 月 27 日幹事会及び記者会見の御報告
 - ㉒会長談話「柏原正樹先生の 2025 年アーベル賞受賞を祝して」の発出について
 - ㉓3 月 31 日幹事会及び記者会見の御報告
- （6）日本医学会・日本医学連合
 - ① [ibunka-m1] の周知
 - ②日本医学会に関するアンケートの回答
 - ③2024 年日本医学会分科会一覧記事送付
 - ④日本医学会連合 2024 年度定時社員総会
 - ⑤日本医学会定例評議員会出席
 - ⑥日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・シンポジウム出席
 - ⑦第 3 回日本医学会連合 Rising Star リトリート 2 名参加
 - ⑧2024 年度加盟学会連絡協議会出席
 - ⑨日本産科婦人科学会から要望について（回答）
 - ⑩シンポジウム開催のご案内及びアンケートのご依頼
- （7）関連団体との共催、協賛、後援の許可
 - ・第 26 回ダノン健康栄養フォーラム
 - ・第 38 回日本キチン・キトサン学会大会
 - ・公開講演会「大豆のはたらきー人と地球を健康にー」
 - ・日本食物繊維学会第 29 回学術集会
 - ・第 20 回日本たまご研究会
 - ・「食品ハイドロコロイドセミナー2024」「第 35 回食品ハイドロコロイドシンポジウム」
 - ・令和 6 年度食育健康サミット
 - ・株式会社食品科学新聞社「Ifia JAPAN 2025-第 30 回国際食品素材／添加物展・会議 HFE JAPAN 2025-第 23 回健康/機能的食品素材展」
 - ・化学工学会第 90 年会 SDGs 検討委員会シンポジウム
 - ・「世界摂食障害アクションデイ 2025」

(8) 利益相反 (C01) 関連

会員の C01 状態の報告・開示について管理した。

IV 総会、理事会等の開催状況

(1) 定時社員総会

令和 6 年 5 月 24 日 (金) 9:30 ~ 10:20

(2) 理事会

第 1 回	令和 6 年 4 月 27 日 (土)	13:30 ~ 15:20	Web 会議
第 2 回	令和 6 年 5 月 23 日 (木)	16:00 ~ 17:40	
第 3 回	令和 6 年 7 月 27 日 (土)	13:30 ~ 16:30	Web 会議
第 4 回	令和 6 年 10 月 19 日 (土)	13:30 ~ 15:43	Web 会議
第 5 回	令和 7 年 1 月 22 日 (水)	17:30 ~ 19:54	Web 会議
第 6 回	令和 7 年 3 月 22 日 (土)	13:29 ~ 16:09	Web 会議

(3) 臨時理事会

第 1 回 令和 6 年 5 月 24 日 (金) 10:23 ~ 10:36

(4) 業務執行理事打合せ

第 1 回	令和 6 年 7 月 13 日 (土)	13:28 ~ 15:03	Web 会議
第 2 回	中止		
第 3 回	令和 7 年 1 月 14 日 (火)	17:01 ~ 18:40	Web 会議
第 4 回	令和 7 年 3 月 16 日 (日)	9:58 ~ 10:57	Web 会議

(5) 名誉会員・顧問懇談会

令和 6 年 5 月 25 日 (土) 12:00 ~ 13:00

(6) 名誉会員・終身会員推薦委員会

令和 7 年 1 月 14 日 (火) Web 会議

V その他活動

1) 日本栄養学学術連合関係

東京栄養サミット 2021 のコミットメントについて、本学会のこれまでの進捗を取りまとめた。他学会からの報告を含めて一覧にし、2030 年の最終報告に向けて準備を進めている。

他の学会連合と共に、科学研究費増額の署名活動に賛同した。増額の要望書は 9 月 6 日に文部科学大臣に提出された。

2) 日本医学会関係

日本栄養・食糧学会は、一般社団法人日本医学会連合の加盟学会となっており、同連合の委員会・WG に委員を出し協力している。2022 年 12 月には、日本医学会連合の領域横断的連携活動事業 (TEAM 事業) に日本動脈硬化学会が研究代表機関となって申請されたテーマ「動脈硬化性疾患 (ASCVD) 予防および治療を目標とし、メタボリックシンドローム・脂質異常症に対して日本食パターンを基にした生活習慣改善の周知普及」の採択が通知された。このプロジェクトは、基礎部門として日本栄養・食糧学会 1 学会が、社会部門 2 学会、臨床内科部門 6 学会、臨床外科部門 2 学会、その他医学会非加盟学会 6 学会の総勢 17 学会が加盟し、令和 5 年度は日本動脈硬化学会が中心となって事業が行われ、令和 6 年度には前年度成果について日本栄養・食糧学会をはじめ協力学会により協議・修正を経て最終成果物「動脈硬化性疾患予防のための食事療法～関連する栄養素及び The Japan Diet を構成する食品について～」および「運動と身体活動の脂質異常症・動脈硬化性心血管疾患に対する効果」の作成等の事業活動が行われ、日本医学会連合に提出された。

第 78 回年次大会では、「糖尿病の食事栄養療法の現在～エビデンス、ガイドラインから現場指導まで」をテーマとして、医学系学会との合同シンポジウムが開催された。「Deciphering Biomedical Systems-生物医学研究最先端-」をテーマとして開催された日本医学会リトリート事業においては、「CREB coactivator CRTC1 によるエネルギー代謝制御機構の解明」および「内因性物質や栄養物質の体内動態制御を担う膜輸送体の生理的機能とその個人差や破綻が体質や疾患リスクに与える影響の解明」などの成果が発信された。

3) 宇宙食健康認定制度検討委員会

令和 7 年 5 月 内閣府に「宇宙食健康認定制度」の承認のための変更届を提出予定

令和 7 年 5 月 総会により上記認定制度の承認

第 5 回宇宙食健康認定制度検討委員会を開催

「宇宙食健康認定制度」キックオフシンポジウムを年次大会中に開催する

宇宙食健康認定士の募集開始

令和 7 年 12 月頃 第 1 回宇宙食健康認定士・宇宙食健康指導士認定委員会を開催し、令和 7 年の認定者を決定予定

4) 利益相反 (C01) 委員会

例年通り、規程上必要な各種役員等における利益相反申告を行っていただいた。その結果について審査を実施した。本年度は、C01 に関する問題は特に認められなかった。

5) ダイバーシティ推進委員会

第1回ダイバーシティ推進委員会： 2024年6月14日（金） 15：00～17：00
 2024年11月1日より、男女共同参画学協会連絡会に正式加盟学協会として入会することにした。
 当学会の男女共同参画の現状を調査することにした。

●男女共同参画の現状に関する調査結果

	合計		女性		女性比率	
	総数	(うち医師数)	総数	(うち医師数)	全体	(うち医師数)
総会員数	3771	132	1925	16	51	12
新入会員数（2023年度）	314	9	185	2	59	22
20代会員数	949	0	603	0	64	0
30代会員数	589	3	328	0	56	0
40代会員数	672	13	352	2	52	15
50代会員数	721	34	330	6	46	18
60代会員数	502	53	211	6	42	11
70代会員数	329	29	97	2	29	7
学生会員数	931	0	588	0	63	0

役職	合計		女性		女性比率
	総数	(うち医師数)	総数	(うち医師数)	全体
理事長	1	1	0	0	0
理事・監事	22	3	6	0	27
評議員・代議員	110	11	29	1	26
監事	2	0	0	0	0
編集委員	49	14	13	1	27
ダイバーシティ推進委員会委員	15	1	8	0	53
全委員会委員	118	21	32	1	27

年号	会長			副会長			理事			監事		
	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率
2024-2025	1	0	0	1	0	0	20	3	15	2	0	0
2022-2023	1	0	0	1	0	0	20	5	25	2	0	0
2020-2021	1	0	0	1	0	0	20	4	20	2	0	0
2018-2019	1	0	0	1	0	0	20	6	30	2	0	0
2016-2017	1	0	0	1	0	0	20	4	20	2	0	0
2014-2015	1	0	0	1	0	0	20	2	10	2	0	0
2012-2013	1	0	0	1	0	0	19	3	16	2	0	0
2010-2011	1	0	0	2	0	0	19	1	5	2	0	0
2008-2009	1	0	0	2	0	0	20	1	5	2	0	0
2006-2007	1	0	0	2	0	0	20	1	5	2	0	0
2004-2005	1	0	0	2	0	0	20	2	10	2	0	0
2002-2003	1	0	0	2	0	0	20	1	5	2	0	0
2000-2001	1	0	0	2	1	50	20	1	5	2	0	0
1998-1999	1	0	0	2	1	50	20	2	10	2	0	0
合計	14	0	0	21	2	10	278	36	13	28	0	0
2015-2024年	5	0	0	5		0	100	22	22	10	0	0

シンポジウム・講演 2022年4月～2024年3月	合計	女性	女性比率	一般演題 2022年4月～2024年3月	合計	女性	女性比率
座長	117	26	22	座長	129	40	31
演者	208	55	26	演者	1131	626	55

年号	シンポジウム数			オーガナイザー			講演者		
	合計	女性	女性を含むシンポ比率	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率
2019	18	12	67	36	5	14	78	17	22
2020	13	10	77	22	4	18	50	13	26
2021	9	6	67	13	3	23	36	11	31
2022	17	13	76	34	8	24	74	20	27
2023	17	13	76	35	8	23	67	14	21
2024	16	12	75	30	5	17	58	17	29
合計	90	66	73	170	33	19	363	92	25

年号	国際シンポジウム			ランチョンセミナー						市民公開講座					
	合計	女性	女性比率	ランチョンセミナー数			司会 or 座長			講演者			オーガナイザー or 座長		
				合計	女性	女性を含むセミナー比率	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性を含むシンポ比率	合計	女性	女性比率
2019	4	2	50	8	0	0	8	0	0	9	0	0	2	0	0
2020	4	2	50	10	5	50	9	2	22	13	3	23	2	1	50
2021	4	2	50	5	1	20	2	0	0	7	1	14	4	1	25
2022	4	2	50	8	1	13	6	0	0	11	1	9	2	1	5
2023	6	3	50	7	4	57	6	1	17	10	3	30		3	2
2024	4	1	25	11	1	9	11	1	9	12	0	0	1	1	100
合計	26	12	46	49	12	24	42	4	10	62	8	13	11	13	36

年号	功労賞受賞者			学会賞受賞者			年号	大会会頭	実行委員長
	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率		女性	女性
2024	3		0	3		0	2024	0	1
2023	3		0	3	1	33	2023	0	0
2022	3	1	33	3		0	2022	0	0
2021	3		0	2		0	2021	0	0
2020	2	1	50	2	1	50	2020	0	0
2019	2		0	2		0	2019	0	0
2018	3		0	3	1	33	2018	0	1
2017	3	1	33	3		0	2017	0	0
2016	0		受賞なし	2		0	2016	0	
2015	1		0	2		0	2015	0	
2014	2		0	3		0	2014	0	
2013	2		0	3		0	2013	0	
2012	2		0	2		0	2012	0	
2011	3	1	33	3		0	2011	0	
2010	2		0	3		0	2010	0	
2009	2	1	50	3		0	2009	0	
2008	3		0	3	1	33	2008	1	
2007	2		0	3		0	2007	0	
2006	5	1	20	2		0	2006	0	
2005	1		0	3		0	2005	0	
2004	1		0	2		0	2004	0	
2003	1		0	3		0	2003	0	
2002	2	1	50	3		0	2002	0	
2001	2		0	3		0	2001	0	
2000	1		0	3		0	2000	0	
1999	1		0	3		0	1999	0	
1998	2		0	3	1	33	1998	1	
合計	57	7	12	73	5	7	女性数	2	2
2015 - 2024	23	3	13	25	3	12	女性割合 (%)	3	22

託児所利用数	大会	開催地	1日目	2日目	3日目	合計（延べ）	1日当たりの定員	料金（1時間）	対象
令和6年度	78回	福岡	1	4	4	9	8	500円	生後3か月から小学生まで
令和5年度	77回	札幌		1	1	2	8	500円	生後3か月から小学6年生まで
令和4年度	76回	神戸	1	7	4	12	8	500円	生後6か月から小学3年生まで
令和3年度	75回	オンライン（東京）							
令和2年度	74回	オンライン（仙台）							
令和元年度	73回	静岡	4	4	4	12	10	600円	生後6か月から小学6年生まで
合計（直近4回）			6	16	13				

年号	研究助成			若手研究助成			国際交流助成		
	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率	合計	女性	女性比率
2024	2	1	50	3	2	67	0		対象者なし
2023	2	1	50	3		0	0		対象者なし
2022	2		0	3	2	67	3	2	67
2021	2	1	50	2	1	50	0		対象者なし
2020	2	1	50	3	1	33	0		対象者なし
2019	2		0	3	1	33	2	2	100
2018	2	1	50	3	3	100	0		対象者なし
2017	2	1	50	2		0	4	2	50
2016	2	1	50	2	1	50	0		対象者なし
2015	1		0				1		0
2014	2	1	50				1		0
2013	1		0				0		対象者なし
2012	2	1	50				5	2	40
2011	2	1	50				0		対象者なし
2010	1	1	100				2	1	50
2009	1		0						
2008	1	1	100						
2007	2	1	50						
2006	2		0						
2005	1		0						
2004	0		対象者なし						
2003	2		0						
2002	2	1	50						
2001	1		0						
2000	0		対象者なし						
1999	2		0						
1998	1		0						
合計	42	14	33	24	11	46	18	9	50
2015 - 2024	19	7	37				10	6	60

	合計	女性	女性比率
学会誌編集委員会	18	4	22
JNSV編集委員会 （ビタミン学会選出委員は除く）	27	8	30
各種授賞等選考委員会	9	1	11
学会活動強化委員会	9	0	0
倫理審査委員会	9	3	33
広報委員会	5	3	60
国際交流委員会	14	5	36
将来構想検討委員会	22	5	23
用語委員会	26	8	31
健康・食品保健表示検討委員会	10	5	50
利益相反（COI）委員会	9	2	22
中央選挙管理委員会	8	1	13
宇宙食健康認定制度検討委員会	7	2	29
ダイバーシティ推進委員会	15	8	53
計	188	55	29

#	課 題	女性比率向上のための提案
1	会員の女性比率は51%、学生会員は63%であるのに対し、理事の女性比率が27%と低いため、学会運営に女性の意見が反映されにくい。	理事の女性比率50%を目標とするよう理事会に提案する。
2	各種授賞等選考委員会（女性比率11%）や中央選挙管理委員会（同13%）の女性比率が低いため、学会賞受賞者（過去10年の女性比率12%）や代議員（女性比率26%）に女性が選出されにくい。	委員会構成メンバー交代の時期に、各委員会委員長および委員の女性比率50%を目標とするよう周知する。委員長を女性にすると構成メンバーの女性比率向上が期待できる。
3	年次大会シンポジウム等の座長（女性比率22%）と講演者（同26%）の女性比率が低いため、女性研究者の知名度が上がりにくく、女性が受賞者や役職者等の候補になりにくい。	座長や講演者の女性比率50%を目標とするよう大会マニュアルに記載する。